カケハシ通信

KAKEHASHI TIMES

No.007
2019.07

発行：公益財団法人AFS日本協会
発行日：2019年７月３日

Building Bridge between High School Students in Japan and Asia.

英語教育に力を注ぎ、高校留学に期待

カンボジア訪問レポート

2019年４月28日、プノンペンでAFSタイ主催による、架け橋２期生ファイナリスト及び保護者のためのオリエンテーションが行われました。１期生が日本の高校生活を紹介するプレゼンテーションを実施、実話の面白さと見せ方の上手さに会場は魅了されました。１期生の母親は「帰国後、子どもの成長に驚いた。不安もあるだろうが、参加する価値は大きい」と、2期生保護者を励ましました。

翌29日、架け橋１期生とともに教育・青少年・スポーツ省を訪問。Chap Sophorn氏は「カンボジアでは大学の交換留学が主だが、若い世代に未来を託すという意味で、高校生留学も大事」と語りました。1993年に内戦が終結し民主政権が誕生した時、英語が各国との架け橋になると英語教育に力を注いできたカンボジア。日本の高校生が同国の架け橋生から学ぶことも多いとの思いを抱き、帰国しました。（架け橋プロジェクトチーム：板東美穂）

新たな参加国・トルコからのメッセージ

多様な意見を受容し、他者を尊重する力を養う体験を

トルコ文化財団／
AFSトルコ事務局長
デルヤ・コミトグル・カプラン

近年、トルコの学生たちの間では、日本語学習に対する意欲が非常に高まっています。このプロジェクトは、トルコの高校生に日本文化を学ぶ機会だけでなく、自国文化を再認識し、多様な意見を受け止め、尊重する力を身につける機会を与えてくれるでしょう。在トルコ日本国大使館の協力を得て、今年はトルコから２名の生徒が参加します。２人とも、日本での生活を楽しみにし、日本語学習に励んでいます。多くの経験を通して、彼らがアジアと日本をつなぐ未来の架け橋となるよう、期待します。（原文は英語。翻訳：架け橋プロジェクトチーム　五嶋春奈）

帰国後も活躍！

日本で得た経験を、母国で紹介する1期生

アジア各国と日本をつなぐ“架け橋バトン”

「アジア高校生架け橋プロジェクト」は、奨学生にたいして日本滞在中の日常的な国際交流をうながすとともに、帰国後の地域貢献活動を奨励しています。日本での体験を母国の人々と共有することで、生徒は自らの異文化理解をさらに深め、両国の「架け橋」として、同世代や地域にインパクトをもたらしています。

（構成・翻訳：架け橋プロジェクトチーム　若生麻衣）

トピック1　インド

後輩に「人生を変える」経験をしてほしい

パテル, ディープ
（架け橋プロジェクト１期生）

５月24～25日、インドのニューデリーで、AFSインドが主催したボランティア開発研修会に参加しました。ボランティア・トレーニングを受けたのは、何よりもAFSが大好きだからです。僕は現在、自分のまちに滞在するイタリア出身のAFS生のLP＊として活動しています。

架け橋プロジェクトへの参加は、僕にとって人生を変える出来事でした。このような体験を他の生徒にもしてもらいたくて、僕はいま、新たな架け橋生を派遣しようと尽力しています。

先日、架け橋プロジェクトの応募を検討している生徒の母親と電話で話しました。彼女はいま、息子の派遣にむけて準備をしています。

ボランティア研修を受講した生徒（前列右から２人目）

メモを取りながらトレーニングを受ける生徒（写真中央）

改めて、僕にこのような機会を与えてくれた「アジア高校生架け橋プロジェクト」に、日本政府・AFS日本協会とAFSインドに感謝します。

＊留学生・ホストファミリー／寮・ホストスクールをつなぐ、AFSプログラムの相談役。
情報伝達、相談対応、話し合いの場の設定など、AFS生滞在期間を通して、必要に応じた支援を行うリエゾン・パーソン。

トピック2　ミャンマー

長崎の原爆体験者との出会いを語る

ブア, フライ

第１期生ミャンマーチームは、３月31日、ヤンゴンで開催されたMAJA（ミャンマー元日本留学生協会）の会議で、架け橋プロジェクトの紹介をしました。僕たちは、帰国直前のオリエンテーションで授与されたプロジェクトのピンバッチをつけて参加しました。プログラムに関心を寄せてくれた多くの参加者から質問がありましたが、できる限り応えました。

その時、一人の新聞記者からインタビューを受けました。僕は、年末年始に滞在した高知県で出会った、92歳のおばあさんのことを話しました。彼女はホストファミリーのおばさんで、長崎の原爆投下の生存者で戦争の悲惨さを２時間にわたり、僕に教えてくれました。当日のインタビューがミャンマーの雑誌で紹介され、AFSやプロジェクトの名前も掲載されました。

プロジェクトを紹介する１期生（写真中央が寄稿生徒）

月刊誌『タンリヤート』に掲載された記事

トピック3　ベトナム

SNSや動画サイトを活用し、生徒募集を展開

ゴック・アイン, チャン

私が帰国後、架け橋プロジェクトに貢献したことを紹介させていただきます。

最初に、帰国したらすぐ日本での体験について紹介する動画の編集を始めました。友達か自分で撮った動画を全部集めて２週間で編集したんです。そしてYouTubeにアップロードしてSNSでも広く共有しました。みんなに応援していただいて嬉しかったです。よろしければどうぞご覧ください！

https://youtu.be/j32CdF8riBs

それから、私の高校の生徒たちにも架け橋プロジェクトを紹介しました。日本語専門の各クラスで日本で体験したことや身につけたことなどをプレゼンテーションにして話しました。関心のある生徒と先生方はたくさんいたんです。日本に興味のある生徒に、この貴重な機会を本当に知ってほしいので、校内だけじゃなく、塾でも広めるようにしました。

さらに、Facebookで日本留学に関するグループやコミュニティに架け橋プロジェクトについて投稿して、多くの人に注目されたんです。特に、ベトナムの日本学生支援機構（JASSO）は私に面接して、私が作った動画、留学体験や架け橋プロジェクトの情報をJASSOのウェブページに載せたんです。動画の再生回数は1,700回を突破したんです。

その結果、今回架け橋プロジェクトのベトナム応募者数は去年より随分増加したらしいです。去年受かった生徒はほとんどがハノイ出身でしたが、今年はホーチミン、ダナンやフエといった南部出身の人もいます。今年のベトナム架け橋プロジェクト生徒たちが仲良くなって留学を助け合えるように、Facebookで全員を探してグループチャットに入れたのです。お互いに会ったことがありませんが、楽しくていっぱい話していました。いい先輩になれるように頑張っています！（日本語原文を掲載）

共に過ごした架け橋生の協力を得て、日本の高校生活を紹介するビデオを制作

日本滞在中の思い出。この貴重な機会を多くの生徒に経験してほしい

トピック4　インドネシア

イベント・TVやSNSで架け橋プロジェクトを積極的に紹介

アディラ, ニバ
（架け橋プロジェクト１期生）

こんにちは。帰国後に、インドネシアで私が取り組んだ活動を紹介します。

1）カー・フリー・デーでたいやきを作り、架け橋プロジェクトを紹介

2）政府主催のイベントで日本文化や日本での生活について紹介

3）高校のパーティーで、浴衣を着て日本文化を紹介

4）日本紹介イベント「文化祭」で、日本の歌「未来へ」を歌唱

5）政府主催の東日本大震災８周年の追悼イベントに招かれ、日本の歌を披露

6）地元テレビ局の番組に出演し、架け橋プロジェクトと日本での生活を紹介

7）SNSを通して問合せがあった「架け橋プロジェクト」応募者に対応。インタビュービデオをYouTubeで公開

8）地元ラジオ番組に出演し、今年度の架け橋生4人を紹介

東日本大震災８周年の追悼イベントにて

地元ＴＶ局に出演し、日本での経験をシェア

架け橋プロジェクトに関心を寄せる生徒は多く、彼らと話すたびに「ホストファミリー、高校や友達とどう接するべきか」をアドバイスします。私にとって、日本での経験はとても貴重なものだっただけに、彼らが将来の架け橋生となるよう願って活動しています。

サポートの現場から 7

学生ボランティアの活躍

AFSでは、留学生の受入れにあたり、学生ボランティアが中心となって（1）到着直後オリエンテーション、（2）帰国直前オリエンテーションなどを開催しています。海外からやってくる留学生だけでなく、海外へ飛び立つ日本人生徒もサポートする彼らの活動は、半世紀以上にわたり受け継がれています。

到着直後オリエンテーションの企画・運営・準備

2019年６月16日（日）、東京都内で「学生ボランティア　キックオフ・ミーティング」を開催しました。首都圏・関西・四国・九州の大学から、総勢47人が集合。オリエンテーションの目的・意義を確認するとともに、学生ボランティアが果たす役割をワークショップ形式で話し合いました。

集まったボランティアの中には、架け橋生の先輩とも言えるアジア諸国からの留学生（大学生）７人の姿も。多様性にあふれるメンバーが、第２期生・200人をサポートします。

留学生の成長に立ち会う意義

学生ボランティアは、幾度も議論を重ねながら、およそ２か月かけてオリエンテーションの準備にあたります。アジア生がいかに異文化を理解し、適応するのか――まずは、学生自身が「異文化に身を置くこと」の意味を問い、さまざまなアクティビティを企画・運営します。留学生の成長に立ち会う過程で、ボランティア自身の成長もうながします。

全国から総勢47人のボランティアが集合！

「すべてにおいて初めての経験ですが、何事もチャレンジだと思います。自分の経験値を高められるよう精一杯がんばります
川崎　拳士朗（大学４年、写真右端）

「たくさんの期待を胸に来日する留学生。彼らの留学生活が充実したものになるよう、わたしたちも全力でサポートします！
田中 瑶子（大学２年、写真右から３人目）

「学生ボランティアみんなで、楽しくがんばります！
井上　智徳（大学２年、写真左端）

選出された実行委員

Follow me on Instagram + Twitter

@asia_kakehashi

プロジェクト公式SNSで、架け橋生のメッセージ・活動を紹介

「アジア高校生架け橋プロジェクト」の活動を幅広く紹介する、公式SNSを立ち上げました。1,000人の生徒を１日１人取り上げ、日本で目にしたもの・驚いたことなどを本人の言葉で伝えます。日本とアジア各国に向けて、日・英２言語でメッセージを配信中。等身大の架け橋生を、ぜひご覧ください。

@asia_kakehashi #asiakakehashi

〈編集後記〉

４月から入職しました、西垣と申します。私は「良くも悪くも感情豊かね」と周囲に言われてきました。最近は以前に増して涙もろくなっており、実は留学生や彼らを支える関係者の皆様の寄稿を読んで、一人パソコンを前にオフィスで涙ぐむときがあります。今期の留学生も関係者の皆様も、それぞれ素敵な体験ができますように！（架け橋プロジェクトチーム　西垣くるみ）

いよいよ夏になり、本格的に暑くなってきましたね。「祝令和」と言って世間がお祭りとなっていた春から早３か月。書類の中で「令和元年」という文字を見ると、新しい時代を生きている実感が湧いてきます。８月には架け橋生200人が来日しますが、「令和」の時代を将来、日本・世界にとって良くしていってくれることに期待したいですね。（架け橋プロジェクトチーム　益原秀紀）

発行

公益財団法人 AFS日本協会　http://www.afs.or.jp/　〒105-0004 東京都港区新橋5-22-10 松岡田村町ビル7Ｆ　TEL：03-6206-1911・FAX：03-3507-4300
大阪オフィス　〒532-0011 大阪市淀川区西中島 5-7-11 第8新大阪ビル402号　TEL：06-6309-5151・FAX：06-6309-5191　**架け橋プロジェクトへの問合せ**　asiakakehashi@afs.or.jp
制作：立生株式会社　印刷：Print K 株式会社